

## 第98回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成23年7月29日(金) 7:54～8:15

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	菅 直人	内閣総理大臣
議員	枝野 幸男	内閣官房長官
同	玄葉光一郎	科学技術政策担当大臣
同	片山 善博	総務大臣
同	野田 佳彦	財務大臣
同	高木 義明	文部科学大臣
同	海江田万里	経済産業大臣
議員	相澤 益男	常勤(元東京工業大学学長)
同	本庶 佑	常勤(京都大学客員教授)
同	奥村 直樹	常勤(元新日本製鐵(株)代表取締役副社長、技術開発本部長)
同	今榮東洋子	非常勤(名古屋大学名誉教授)
同	白石 隆	非常勤(政策研究大学院大学教授)
同	青木 玲子	非常勤(一橋大学経済研究所教授)
同	中鉢 良治	非常勤(ソニー株式会社取締役代表執行役副会長)
同	廣渡 清吾	非常勤(日本学術会議会長)
臨時議員	鹿野 道彦	農林水産大臣
	福山 哲郎	内閣官房副長官
	阿久津幸彦	内閣府大臣政務官

(議題)

1. 開会

2. 議事

(1) 第4期科学技術基本計画に係わる意見(決定、意見具申)

- ( 2 ) 科学技術に関する予算等の資源配分方針 ( 決定、意見具申 )
- ( 3 ) 平成24年度科学技術重要施策アクションプランについて ( 報告 )
- ( 4 ) 最先端研究開発支援のフォローアップ及び評価について ( 決定 )
- ( 5 ) その他

### 3 . 配布資料

- 資料 1 - 1 答申「科学技術に関する基本政策について」に関する意見具申 ( 概要 )
- 資料 1 - 2 答申「科学技術に関する基本政策について」に関する意見具申 ( 案 )
- 資料 2 - 1 科学技術に関する予算等の資源配分方針 ( 案 ) の概要
- 資料 2 - 2 科学技術に関する予算等の資源配分方針
- 資料 3 - 1 平成24年度科学技術重要施策アクションプラン ( 概要 )
- 資料 3 - 2 平成24年度科学技術重要施策アクションプラン
- 資料 4 - 1 最先端研究開発支援 ( 最先端プログラム及び次世代プログラム ) のフォローアップ及び評価について ( 決定事項の概要 )
- 資料 4 - 2 最先端研究開発支援の運用に關しての必要事項を審議・決定する会合の名称の統一について ( 案 )
- 資料 4 - 3 最先端研究開発支援プログラム及び最先端・次世代研究開発支援プログラムのフォローアップ及び評価の運用方針 ( 案 )
- 資料 4 - 4 最先端研究開発支援プログラムの運用について ( 改訂案 )
- 資料 4 - 5 最先端・次世代研究開発支援プログラム運用基本方針 ( 改訂案 )
- 資料 4 - 6 最先端研究開発戦略的強化事業運用基本方針 ( 改訂案 )
- 資料 5 - 1 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動 ( 平成21事業年度 ) に関する所見について ( 概要 )
- 資料 5 - 2 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動 ( 平成21事業年度 ) に関する所見について
- 資料 5 - 3 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動に関する調査結果 ( 平成21事業年度 )
- 資料 6 平成22年度科学技術振興調整費による「重要政策課題への機動的対応の推進」課題の指定について
- 資料 7 平成23年度の科学技術戦略推進費に関する報告事項

- 資料 8 平成22年度科学技術の振興に関する年次報告（平成23年版科学技術白書）  
資料 9 当面の科学技術政策の運営について  
資料10 第95回総合科学技術会議議事録（案）

「答申『科学技術に関する基本政策について』に関する意見具申」及び「科学技術に関する予算等の資源配分方針」について原案どおり決定し、総合科学技術会議から内閣総理大臣及び関係大臣に対し意見具申することとした。「平成24年度科学技術重要施策アクションプラン」について報告の後、意見交換が行われた。「最先端研究開発支援プログラムの運用について」について原案通り決定された。

議題（1）～（3）に関する各議員の発言は以下のとおり。

#### 【本席議員】

総理にぜひ申し上げたい。この基本的な考え方、第1点だが、3.11及びそれ以後の震災において我々が最も感じたことは、科学技術そのものと言うよりもそのマネジメントシステムに我が国は大きな問題がある。そこはやはり反省していかなくてはならない。

第2点は、何のために25兆円もこれから国民の税金を科学技術につぎ込んでいくか、そのために、ここでは国のあるべき姿ということを書いている。そして、これを目指して我々はやっていく。

5つ書いているが、その本質は、科学技術というのは、人類がこの地球上でサバイブしていくために不可欠な手段である。既に人類は、いわゆる生物学的な自然淘汰の域を逸脱している。限られた資源、エネルギー、食料、すべて、本来あってはならないほど増えている。これを維持するためには、科学技術なくしては生きていけない。

我が国は国際競争もしながら、なおかつ豊かな生活を維持するというサバイバルゲームの中で、科学技術は不可欠である。ぜひとも、この点を認識していただいて、国民へ25兆を何とか投資していただきたいと、切に願っている。

#### 【高木文部科学大臣】

今回のアクションプランについては、昨年からのグリーン、ライフの、この2大イノベーションに加えて、いわゆる震災復興・再生という災害からの安全性向上というのも加えられており、同時に基礎研究の振興と、そして人材育成の強化というのも重点化されていると思ってい

る。私どもとしても、この報告については支持をしたい。

本会議においては、いよいよ概算要求に向けて、第4期の科学技術基本計画期間中における政府の研究開発投資、総額25兆円の確保に向けたイニシアチブを発揮していただきたい。

【奥村議員】

資源配分について、一言、関係大臣にお願いしたい点がある。

先ほど4期で5年間、25兆円ということを目指すということを決めていただいたが、現在のお金の使い方は、その3分の2が実は運営交付金として機関、法人使い切り自由のお金。これは先進国と比べて極めて特異な研究開発費用の使い方、構造になっている。

したがって、国家戦略である基本計画を実行するに当たり、使用機関使い切りのお金でやるという、これ自体が論点としてあってもいいかもしれないが、短期的には、関係府省の所管されている研究開発独法、それから文科省におかれては国立大学法人、そういった機関が、この4期の基本計画に沿うような形で中期目標なり中期計画を修正していただき、4期計画の実効性を担保していただくようお願いしたい。

【枝野内閣官房長官】

今の奥村議員のお話ともつながるのかもしれないが、この4つの重点化分野に資源配分をまさに重点化する、大変重要なことだと思う。同時に十分御配慮は従来からしていただいているとは思いますが、重要な分野であるがゆえに、それぞれの分野の中におけるメリハリをしっかりとつけていただくことが大変重要だと思っているので、科学技術政策担当大臣を中心に、そのメリハリをしっかりとつけることをよろしく願います。

【菅議長（内閣総理大臣）】

今日は、大変重要な総合科学技術会議、第98回ということになる。

特に、第4期科学技術基本計画の策定に向けた答申の見直しについて、本日意見具申を決定していただいた。

その中で幾つかの議論があったが、先ほど本席議員から、人類が存続していく上で、この科学技術の発展というのは不可欠な存在であるという御指摘があった。この意味は、なかなか重いものがあると思っており、科学技術と人類というか、日本のあり方そのものとの関係ということで、大変重要な指摘かと思っている。同時に、3月11日の大震災を踏まえて、意見具申

でも相当そのことを検討していただいたと思っている。

第1に、震災からの復興、再生を最優先に設定をしていただいた。また、従来から取り組んできたグリーンイノベーション、ライフイノベーションという2つのイノベーションの取組を、さらに強化するという事も入れていただいた。さらには、グリーンイノベーションでは、再生可能エネルギーの大幅な拡大、また分散型エネルギーシステムの構築といった、まさに今、重点を入れて力を入れて取り組まなければいけない問題についても、改めて指摘をいただいた。

さらには、基礎研究や人材育成について、長期的な視点に立って進めていくという御意見もいただいた。先ほど議論のあった、この最先端の研究支援においても、若い人たちの研究が進むようにということで、いろいろ議論をしたことを思い出しながら聞いていた。そういった4点について意見具申をいただいたと、このように認識している。

新成長戦略の見直しなど、重点政策をめぐる議論を踏まえながら、今後は基本計画の実現のため、予算の重点化を図りつつ、しっかりと作業を進めていただきたい、そのことを私から皆さんにお願いを申し上げる。